

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(3)-イ	ブルーエコノミーの先導的な展開	施 策	③海洋政策の総合的推進
			施策の小項目名	○海洋環境等の調査研究・ネットワーク形成等の推進
主な取組	熱帯性海域における漁場環境特性を高度に活用した生産技術開発		対応する成果指標	海洋政策事業に係る関係団体数（事業者、研究機関等）
施策の方向	・OISTや琉球大学、研究機関等との国内外のネットワーク形成を視野に入れた産学官の相互連携、海洋生物資源の持続可能な利活用の共同研究や、ブルーカーボンなど海洋生態系の活用可能性の検討等に取り組むとともに、持続可能な海洋島しょ圏を支えていく海洋人材の育成・確保を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
熱帯性海域における漁場環境特性を高度に活用した生産技術開発に向け、さまざまな水産関連研究を実施する。	県	本県の地域特性を生かした水産関連研究の実施		
		水産業の技術開発数（累計）		
		3件	2件（5件）	3件（8件）
担当部課【連絡先】	農林水産部農林水産総務課 【 098-866-2254 】		関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況						(単位：千円)			
予算事業名		試験研究費（受託） ☐				予算事業名		試験研究費（受託） ☐	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額			R6年度			
				主な財源		実施方法	当初予算額		
国直轄	直接実施	67, 251	95, 655			国直轄	直接実施	43, 490	
令和5年度活動内容						令和6年度活動計画			
海域特性を活用した生産技術開発に向け、漁場形成、資源管理、魚介藻類の養殖技術、魚病、漁場保全、海洋深層水の活用等に関する試験研究を実施した。						漁場形成、資源管理、魚介藻類の養殖技術、魚病、漁場保全、海洋深層水の活用等に関する試験研究を実施する。 ☐			

活動指標名	水産業の技術開発数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	-件	3件	3件	2 件（5 件）	100. 0%	順調	海域特性を活用した生産技術開発に向け、漁場形成、資源管理、魚介藻類の養殖技術、魚病、漁場保全、海洋深層水の活用等に関する試験研究を実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
当初の予定どおり、「マチ類の生態に考慮した資源管理手法の開発」、「ヤイトハタの安定採卵に向けた技術開発」、「ハタ類における形態異常発生の原因解明と予防技術の開発」の3事業を令和5年度までに完了した。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○より低コストな芽出し促進技術の開発に向け、関連事業において、その基礎的知見の集積を図る。 ○国、関係都道府県と連携を強化し、資源評価に関する情報収集の効率化を図る。また、外部への委託等を活用し、調査体制の拡充を図る。 ○調査や検査の補助業務ため会計年度職員を配置する。また、多様な疾病に検査に対応した技術を習得するための研修への参加、大学・研究機関との連携を強化する。	○モズクの芽出し促進技術を開発するため、確実に芽出しをする種苗を確保する必要性が生じたことから、健苗性に関する研究を新規細目課題化した。 ○国、関係都道府県と連携を強化し、標本の提供等の協力により情報収集の効率化を図った。また、外部への委託等を活用し、調査体制の拡充が図られた。 ○調査や検査の補助業務ため会計年度職員を配置した。また、多様な疾病に検査に対応した技術を習得するための研修への参加し、大学・研究機関との連携が図られている。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	燃料費の高騰により、特に沖合漁業の操業効率化に向けた技術開発が求められている。また、ソデイカの資源量の減少が懸念されており、適切な資源評価と資源管理策の高度化が求められている。	② 連携の強化・改善	大学、研究機関と連携し、沖合漁業の効率化およびソデイカの資源管理策の高度化に向けた調査研究を拡充する。
⑤ 県民ニーズの変化(外部環境の変化)	県内スギ養殖において、新型の細菌病が発生しており、その対策への対応が求められている。	② 連携の強化・改善	研究機関、製薬会社等と連携し、ワクチンの効果試験等を行う。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	沿岸環境の悪化や気象変動の影響により、海藻養殖に必要なとなる天然種苗の確保や、養殖の安定生産が困難な状況が頻発している。	① 執行体制の改善	海藻類の種苗生産や養殖生産の安定化に資する研究課題や調査体制の拡充を図る。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(3)-イ	ブルーエコノミーの先導的な展開	施 策	③海洋政策の総合的推進
			施策の小項目名	○豊かな海への関心を高める情報発信
主な取組	水産業の振興のための普及活動等の実施		対応する成果指標	海洋政策事業に係る関係団体数（事業者、研究機関等）
施策の方向	・ 海洋に関する理解を深め、本県の豊かな海への関心をより一層高めるため、美ら海水族館等の社会教育施設、研究機関、関係団体等と連携した海洋教育を推進するとともに、「海の日」等の機会を通じた海洋に関するイベントの開催等による情報発信に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
地域との交流イベント、試験研究施設の見学・視察対応、関係団体との共催による交流大会等の開催	県,市町村,関係団体	地域との交流イベント、試験研究施設の見学・視察対応、関係団体との共催による交流大会等の開催		
		参加人数(累計)		
		100人	105人(205人)	110人(315人)
担当部課【連絡先】	農林水産部水産課	【 098-866-2300 】	関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況						(単位：千円)			
予算事業名			水産業改良普及事業			予算事業名		水産業改良普及事業	
主な財源		実施方法		R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	R6年度			
各省計上		直接実施		5,381	3,766	主な財源		実施方法	
						当初予算額			
						各省計上		直接実施	
								4,332	
令和5年度活動内容						令和6年度活動計画			
水産教室の実施、JICA研修生・漁業者などに対し試験研究施設の見学・視察対応を行った。県漁連との共催による交流大会を開催した。						地域との交流イベント、試験研究施設の見学・視察対応、水産関係団体共催による沖縄県青年・女性漁業者交流大会を開催する。			

活動指標名		参加人数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
		R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値		-人	152人	159人	105人（205人）	100.0%	順調	少年水産教室、JICA研修の講義・施設見学を実施。沖縄県青年・女性漁業者交流大会を開催し、漁村青壮年・女性漁業者および研究グループ等の自主的な活動実績が発表され、相互間の知識交流が図られた。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

R5年度目標値の105人に対し、少年水産教室16人、JICA研修28人、交流大会115人と実績159人と達成割合が100%となっており進捗状況は、順調と判定した。交流大会での県知事賞受賞者が、全国大会で農林水産大臣賞を受賞した。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○課題発表の時間を十分に確保するため、発表者と念入りに事務調整する。	○発表者との事前調整を念入りに行い課題発表の時間を十分に確保できたことで、滞りなく大会を運営できた。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	沖縄県青年・女性交流大会の発表者の立候補や推薦等が少なく、県職員が選出を支援しているため、候補者の情報収集に苦慮する場合がある。	② 連携の強化・改善	各漁協、漁業士会等地域の事情に精通している関係者と連携し、発表課題、発表者等を選出する。